

スービック港湾開発計画【フィリピン】

施策所管局課 国別開発協力第一課

評価年月日 平成 22 年 8 月

1. 案件概要	
(1) 供与国名	フィリピン
(2) 案件名	スービック港湾開発計画
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日, 供与条件などを含む	<p>コンテナターミナルの新設および既存港湾施設のリハビリ等を行うことにより, スービック自由港の貨物取扱能力を増大させ, スービック地区を含む中部ルソン地域の物流の円滑化・促進, 地域経済の発展, マニラ港の混雑緩和を図るもの。</p> <p>案件の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土木工事 ・ 資機材調達 ・ コンサルティングサービス <p>ア 閣議決定日:平成 12 年8月 25 日 イ 供与限度額:164.50 億円 ウ 金利:0.95%/0.75% エ 償還(据置)期間:40(10)年 オ 調達条件:日本タイド/二国間タイド</p>
2. 事業の評価	
(1) 経緯・現状	<p>ア 社会的ニーズの現状</p> <p>同国の経済活動は海上輸送に大きく依存しているが, 港湾での貨物取扱量増加にも関わらず, 港湾設備の整備が十分でない。特にマニラ首都圏への経済活動の集中に伴い, マニラ港への負担増加は顕著となっており, 円滑な物流に支障をきたしている。</p> <p>マニラ首都圏の物流状況やマニラ港への大きな負担といった, 首都圏一極集中の状況は, 当初計画時と変わっておらず, 社会的ニーズは引き続き大きい。</p>

	<p>イ 事業遅延に関する経緯・現状</p> <p>先方政府側の要望により、借款額の範囲内での追加工事が検討され、実施スケジュールを1年間延長したため、貸付実行期間は当初予定の9年間から10年間に延長となり、2010年12月に貸付を完了する予定(2010年12月に貸付完了済)。一方、世界的な経済・金融危機の影響等により貨物の取扱量が低い水準にとどまっており、実施機関と共に更なる港の活性化に努めている。</p>
<p>(2) 今後の対応方針</p>	<p>追加工事分についても順調に進捗し、平成22(2010)年12月に貸付を完了する予定(平成22(2010)年12月に貸付完了済)。</p>
<p>3. 政策評価を行う過程において使用した資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交換公文 ・外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/anken/zyoukyou.html) ・国際協力機構の案件検索(http://www2.jica.go.jp/ja/yen_loan/index.php) ・国際協力機構のプレスリリース(http://www.jica.go.jp/press/index.html) ・国際協力機構の事業事前評価表 (http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/before.html) ・その他国際協力機構から提出された資料